

福岡県立直方特別支援学校

肢体不自由教育部門 高等部



高校生ボランティア・アワード2024

支援する・される側から「支え合い」へ ～私たちにできること

高齢者施設との交流(傾聴ボランティア)

高齢者施設との交流も6年目を迎えました。昨年度もオンラインでの実施でしたが、利用者みなさんに喜んでもらうだけでなく、一緒に楽しめる活動を考え、工夫を重ねました。昨年度は、利用者さんとオンラインで脳トレクイズや学校紹介などをしました。毎回工夫し、準備をしっかりすることで、楽しい時間がもてました。

去年までは3名で内容を考えることができましたが、今年度は2名でのスタートなのでお互いが充実した交流ができるように活動内容を考えていきたいと思っています。



まずはお互いに自己紹介。



2年生は発言や動きに余裕や自信がありました！

今年度初めての交流の様子

SHODAI(2年) 高齢者施設との交流も2年目を迎えました。最初は少し緊張したり、表情の見せ方や話し方といったオンライン特有の難しさを感じたりしましたが、交流を重ねるごとに徐々に慣れていき、利用者の皆さんと楽しく活動できるようになりました。何よりも利用者みなさんが笑顔になってくださったことが自分にとってとてもうれしかったです！

今回初めての傾聴ボランティアですごく緊張しましたが楽しく会話することができたのでよかったです。しかし声をしっかり出せなかったり話まったりすることがあったので改善していきたいです。また今回は施設の方にたくさんお話を聞いていただいたので、次回までに話の聞き方について学び、もっと傾聴できるようになりたいです。

RYUSEI(1年)

地域で生きる一人として ～知る、実践する、つながる、貢献する～

「自分たちのため」から「地域のため」に。

これまで、福祉的就労を目指している類型のみの活動でしたが、一昨年度からは重度重複障がいのある生徒も含めて、それぞれができることで地域と繋がった活動をしています。

知る

自分たちがこれまでやってきた取り組みが、どのように地域や社会が抱えている課題の解決につながっているのか知ることができました。これからも、自分たちのためだけでなく、地域や社会とつながるために、まずは、目の前のことに一つ一つ取り組みます。

つながる



近所のカフェからいただいたコーヒードロップを脱臭剤にリサイクル



レジ袋を再利用！リサイクルポーチ



廃材を利用したメモスタンド



直方銘菓をモチーフにした成金縁頭マグネット



福岡県庁での販売会には、OriHimeでも遠隔参加しました

皆でデザインしたコーヒールラベル Ver3

貢献する



今年も、直方市に売上金を寄付しました！

全員参加の「そうじの時間」

それぞれの「できること」で貢献する

自分たちが使っているトイレを中心とした週に1回の全員そうじを始めて3年目。すっかり定着しました。そうじの内容は、一人一人の実態に合わせて、様々です。便器を磨いたり床を拭いたりする人、手洗い場を担当する人、教室のゴミを集める人、手すりの消毒をする人など、それぞれが「できること」で貢献しています。毎時間目標を決めて掃除することで、自身の課題を見付け責任感をもって取り組むことができました。



細かなところまできれいになるよう丁寧にがんばっています！



それぞれにあった方法で工夫しながら掃除をしています。



最初は少ししか持てなかったごみ袋も、たくさん運べるようになりました。

ゴミ回収に来るのを、準備して待ってくださるのが、うれしいです。



今年度は、さらにそうじ区域やゴミ回収区域を拡大しました。また、ペアで活動することで、役割も明確になりました。これからも個人で、また介助者と一緒に、参加や貢献のあり方を学ぶだけでなく、周りの人たちにも考えてもらおうきっかけになるといいです。

できることを、できるところから。

それぞれの社会参加の在り方を実現するために。

ここで紹介している活動は学校で学習活動として行っていることです。この中には、自分で考え、工夫しながら取り組んでいることもあれば、先生方に教えてもらいながら活動していることもあります。はじめは、言われるがままやっていたこともありましたが、でも、色々な人たちが「ありがとう」と言われたり、自分たちがしたことが誰かの役に立っていることを実感できたりするときに、とてもやりがいを感じています。今後は、できるだけ自分たちで考えて行動していきたいと思っています。

継続は力なり...だけど、もっともっと結果を出していきたい！

これまで取り組んできた内容を整理してみると、私たちがしてきたことはSDGsの目標そのものであることに気がきました。

私たちは、様々なことが上手にできなかったり、時間がかかったりすることばかりです。でも、続けることで、目的意識や役割意識、手順の理解や責任感などが高まり、以前より大きく成長できていると実感しています。これからも、できるだけ自分たちで教え合いながら、それぞれができることに日々取り組んでいきたいと思っています。そして、私たちが社会参加のあり方を、多くの人に知ってもらいたいです。



福岡県立直方特別支援学校 肢体不自由教育部門 高等部
A類型2名、B類型10名、C類型7名 計19名

私たちは、障がいや病気などにより、身体に「ちょっとだけ」ハンディキャップがあります。必要な支援を得ながら、仲間や先生方と共に夢や目標に向かってそれぞれに必要な学習をしています。日常生活では、進学に向けた勉強や、社会で活躍できるようになるための訓練など、自分に必要な学習にそれぞれが取り組んでいます。時には失敗をして悔しい思いをしたり、なかなかうまくいかず歯がゆい思いをしたりすることもありますが、そんな思いをバネにして、なりたい自分に近づいていこうと前向きに毎日過ごしています。当面の目標は、先輩方が築いてきたことをしっかり受け継ぎ、続けていくことです。これからもお互い助け合い、励まし合い、競いながら、自分らしく笑顔でいられるよう、がんばってまいります！